

前橋市産業振興ビジョン（仮）の策定について

1. 前回懇談会での主な意見について

1) 策定にあたっての準備段階

- ・メンバー構成の見直しが必要（経済学的事実、金融機関との付き合い方、製造業と小売業の差を分っている等）
- ・具体的な材料が出てこない重点分野の話もできない。
- ・そのためは、より広く、高いビジョンを描ける人の話を聞きながら、ビジョン作成を行ったほうが良い。
- ・ビジョン作成にあたっては、ターゲット（計画期間？）を絞ることが重要である。
- ・中期（3年）、長期（5年）の目標がなければいけない。10年後は見えない。
- ・産学官連携やベンチャーがうまくいっていないには理由がある。（これからうまくいかないのではないか）

2) 本市のストロングポイント（地域特性、地域資源、経営資源など）

- ・群馬県が日本で1番が2つ（①新技術の開発、ものづくりの技術の高度化＝群馬県が元気②県外から進出した企業の企業立地面積）ある。その理由は、発達した高速道路網、液状化が起こりにくい地盤（災害に強い）が挙げられる。

3) ビジョンに盛り込むべき視点や具体的な取り組みなど

- ・インフラ整備（道路だけではなく、燃料関係、雇用関係などを含め）
- ・輸出に向けた拠点づくり
- ・地元企業が世界に対抗できるように育成していかなければいけない。
- ・30年後も生き残る、勝てる企業を育成していかなければいけない。
- ・金融機関は国の補助金の最終窓口となり、その意味からも金融機関のお墨付きは企業に良いこと。さらには、補助金の窓口となることは、融資の機会につながり、金融機関に良いこと。
- ・このようなことから、金融機関を含めた施策を考えたほうが良い。
- ・新産業の創出に違和感がある。本業を土台として、高付加価値を創出、プラスアルファを考えて世界を舞台に活躍している企業がたくさんある。
- ・この辺りを見直して、「新しい前橋らしさ（現在の事業の中で高付加価値を創出、世界で戦える産業の創出など）」を作っていけば良い。
- ・オンリーワン企業を目指す、どこにもできないようなことをやるということが、中小企業の真髄だと思う。
- ・そのため、市としてどのような支援が行えるのか。また、3年後、5年後のターゲットをどのように決めるのか。ということを考えないといけない。

2. 策定スケジュールの変更（案）について

1) 産業振興ビジョン作成の進め方

- a) 策定に必要な準備を十分行う。
- ・ビジョン策定に必要なデータや情報等を収集する。
 - ・更には、現場からの生の情報等も収集する。
 - ・収集したデータや情報等を、専門家により分析を行う。
 - ・分析の結果、導き出される本市産業のポテンシャルや課題等を把握する。
 - ・この過程を踏まえ、目指すべき本市産業の将来の姿（基本目標）、計画期間、目標とする指標等を整理する。
- b) 本市のストロングポイント（地域特性、地域資源、経営資源など）を整理し、成長が期待できる分野や取り組み等について検討
- ・本市産業のポテンシャルを活用する分野や取り組み等について検討する。
 - ・本市産業の課題等を上手に活用することで、ストロングポイントとなる、あるいは、成長が期待できる分野へと変わる、柔軟な発想や視点による取り組み等について検討する。
- c) ストロングポイントや成長が期待される分野に関する取り組み等を踏まえ、ビジョンに盛り込むべき視点や具体的な取り組み等について検討
- d) ビジョンの着実な推進に向けた推進体制や進捗状況を検証する組織等について検討

2) スケジュール変更（案）

	変更前	変更後（案）
5月	■第3回懇談会 （ビジョンの概要・策定スケジュール提示）	■第3回懇談会 （ビジョンの概要・策定スケジュール提示）
6月	■第4回懇談会 （現状と課題部分の記載内容提示）	
7月	■策定のための懇談会の開催 ・将来像・方向性部分の記載内容提示	■第4回懇談会（7/8） （ビジョン作成の進め方）
8月	・重点分野・施策展開部分の記載内容提示	
9月	・ビジョン全体案提示 ・ビジョン全体修正案提示	■第5回懇談会（9月末～10月頭） （基本目標、計画期間、目標指標等の提示）
10月		
11月	●パブリックコメントの実施 ■懇談会の開催 （パブコメ後の修正）	■第6回懇談会（11月末） （ストロングポイント、成長分野、具体的な取り組み等の提示）
12月	産業振興ビジョン策定	■第7回懇談会（12月末） （推進体制、検証組織等の提示）
1月		●パブリックコメントの実施
2月		■第8回懇談会の開催（2月末） （パブコメ後の修正）
3月		産業振興ビジョン策定

